

令和3年度第1回下野市総合計画審議会で出された質問に対する回答等について（松本委員からのご質問に対する回答）

※7月20日に開催された令和3年度第1回下野市総合計画審議会において、当日回答出来なかったご質問を、事前にまとめて回答させていただきましたので共有させていただきます。

1 第二期総合戦略について

Q. PDCA サイクルの中で総合計画審議会はC（Check）にあたると思いますが、そのあとのA（Action 施策・事業の見直し）については総合戦略においてはどのような形で見直しが行われるのでしょうか。

A. Action 施策・事業の見直しについてですが、総合戦略については毎年度改定することができるとされていますので、皆さまからいただいたご意見を、内部組織である地方創生推進本部会議で検討し、各事業の見直しや必要な箇所の改訂を進めていきたいと思えます。

地方創生推進本部会議では委員の皆さまからいただいたご意見について、必要に応じて、各事業について来年度の予算化も含めて検討させていただきます。

Q. 今回配られた総合戦略は策定されて1年で改訂が行われているようですが、どの点が、どのような理由で改訂されたのかをお聞かせいただきたいと思えます。

A. 昨年度の改訂箇所については、例としてですが、3頁の「下野市における第二期総合戦略の基本的視点」と9頁「新たな視点を取り入れた新たな取組の立案」に「新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対応するように」といった文言を追記させていただきました。

その他、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対応した事業を追加させていただきました。詳細は別添 資料 1-4 をご覧ください。

Q. No. 11 定住促進住宅新築等補助件数の基準値が延30件となっていますが、基準値は令和元年度または平成30年度の単年度の数値ではないかとお伺いしましたが延30件とはどのような数値なのでしょうか。

A. No. 11 の基準値は、平成28年度から始まった新規住宅取得者家庭菜園整備補助件数と、平成29年度から始まった定住促進住宅新築等補助件数の平成30年度までの延件数

になります。新規住宅取得者家庭菜園整備補助が令和2年度で事業が終了したことにより、第二期総合戦略のKPIを定住促進住宅新築等補助件数のみに変更したため、基準値を定住促進住宅新築等補助件数の平成30年度までの合計17件に変更させていただきます。

Q. No. 13 空き家バンクの登録件数の令和2年の数字が目標値、実績値とも1件となっていますがこれは10件ではないでしょうか。

A. No. 13 空き家バンクの登録件数は基準値が平成30年度までの延件数になります。令和元年度の年間実績値が1件だったため、令和2年度の年間実績値1件と合わせて延10件が延件数となります。

Q. No. 15 下野市観光協会HPアクセス数の最終目標値の欄の36万6千件という数字と年度目標値のうちの令和6年すなわち最終年の欄の34万1千件という数字が違っていますが、その理由をお尋ねします。

A. 令和6年度の数値が間違っていましたので下記のとおり修正し、併せて各年度目標値を修正させていただきました。

基準値	年度目標値					
	年度	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
33万6千件	目標値	33万7千件	34万4千件 33万8千件	35万1千件 33万9千件	35万8千件 34万件	36万6千件 34万1千件
最終目標値	実績値	23万6千件				
36万6千件	達成度	C				

Q. No. 11 で基準値が「延」の数字として「延30件」と記述されているのは、どういう意味なのかお伺いします。

A. No. 11 について、基準値を単年度で記載することは不動産取得の補助という性質上、年度でのばらつきが大きいため、基準値、最終目標値を制度開始時からの延件数で記載することが適当と判断しました。

Q. No. 27 認知症サポーター数については、総合戦略の本体において、「認知症サポーター養成講座受講者数」として、基準値が7,881人、目標値が12,000人となっていますので、この評価分析シートの年度目標値の欄も、カッコ内に「延〇〇人」と書くのではなく、「講座受講者数」の各年における「累計」の数字をそのまま「延」を付けず1行

目にカッコなしで書き込んでおくべきではないでしょうか。もし単年ごとの受講者数も書き込む必要があるならば、各年の欄の2行目にカッコ書きでその数字を書く形にするべきだと思います。また、ここにある令和元年の基準値7,881人に令和2年の受講者92人を加えると7,973人にしかならず、令和2年の実績値の欄のカッコ内にある9,389人とは計算が合わないのですが、この計算では違っているのでしょうか。

更に、最終目標値は、総合指標の本体では「12,000人」となっており「延」とは書かれていないので、9頁No.27の最終目標値の欄からは「延」の文字は削っておく必要があると思います。

A. ご指摘ありがとうございました。記載方法を下記のとおり変更させていただきました。

基準値7,881人につきましては平成30年度までの人数であるため、令和元年度の受講者数1,416人と令和2年度の受講者数92人を加えると令和2年度の実績値9,389人になります。

基準値	年度目標値					
	年度	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
7,881人	目標値	9,800人 (年間500人)	10,350人 (年間550人)	10,900人 (年間550人)	11,450人 (年間550人)	12,000人 (年間550人)
最終目標値	実績値	9,389人 (年間92人)				
12,000人	達成度	B				

Q. この評価分析シートの記述については、総合戦略の本体の記述とすべて平仄を合わせておく必要がありますので、その観点から訂正しておく必要のある部分があります。7頁の基本目標③の出生数の単位は「件」ではなく「人」ですし、8頁No.21の年度目標値の単位は「箇所」ではなく「施設」です。また、2頁No.3の基準値は「1件」ではなく「7件」だと思いますし、同じく2頁No.4の基準値は「7件」ではなく「3件」だと思います。以上です。

A. ご指摘ありがとうございました。総合戦略に合わせて変更させていただきました。

2 地方創生関連交付金について

Q. 地方創生関連交付金事業について、目標値が、推進交付金活用事業については令和3年度まで、拠点整備交付金事業については令和2年度までとなっています。拠点整備交付金事業について、令和3年度の目標値はありませんが、これは、施設整備後の例えば3年間だけ目標値を定めてチェックするというので、3年過ぎたので令和3年度の目標値はもう定めなくて良いということでしょうか。

A. まず地方創生推進交付金について、「横展開タイプ」と呼ばれる先駆的、優良事例の横展開を図る事業の事業計画期間は3か年とされており、KPIも3年間設定されています。

「(1) 広域公共交通でつなぐ地域の宝（人・観光・健康・仕事）1市2町連携プロジェクト事業」及び「(2) 6次産業化施設ゆうがおパークの活性化事業」については令和元年度に開始した事業のため令和3年度までKPIが設定されています。「(3) 下野市を知ればもっと好きになる！交流・関係・定住人口好循環拡大プロジェクト」につきましては令和2年度に開始した事業のため令和4年度までKPIが設定されています。

地方創生拠点整備交付金につきましては、申請年度から5年間設定することとされています。地方創生拠点整備交付金の3事業については平成28年度に申請したため、令和2年度までKPIが設定されています。

Q. 資料4 地方創生推進交付金事業「(3) 下野市を知ればもっと好きになる！交流・関係・定住人口好循環拡大プロジェクト」のKPI 2アニメファンクラブの会員数ですが、令和3年度だけ少なくなるような凸凹の数値となっているのはなぜですか。

A. ご当地アニメ「サクラノチカイ」については、制作後、3年間で全国のアニメイベントで周知を行ったため、「サクラノチカイ」ファンが全国的に増え、固定ファンから愛される作品になりました。ファンクラブに関するKPIの数値については、周知を含めるとファンクラブ開設から1、2年目に加入が集中することが予想されたため、1、2年目を多く設定しました。